

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京工業大学	整理番号	F03
プログラム名称	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成		
プログラム責任者	岸本 喜久雄	プログラムコーディネーター	齊藤 正樹

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、通常課程の原子力基礎・専門科目群に加え、特色ある実習を含む原子力安全・セキュリティ科目群や、リスク管理等の課題を広く修得する道場科目群、インターンシップなど充実した多彩な内容の学位プログラムが完成され、強力な指導体制により強い熱意を持って、まさにオンリーワンのグローバルリーダー教育が実践されたと評価できる。特に、東京国際交流館に学生及び教員が共に居住して議論を交わす類例のない全寮制の「道場」を設立し、そこでの恵まれた国際的環境を活用した多くの活動を通じ、「総合的な人間力」の涵養において顕著な教育効果が得られている。また、入口の厳正な2段階選抜試験と出口の博士論文における3段階審査等により、学位の質保証は確実になされていることは評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、インターンシップ、学外実習、被災地でのボランティア、道場での切磋琢磨等により、専門知識と俯瞰力、自主性、国際感覚を養うとともに、ネットワークを構築し、進路と使命への意識を高め、着実に成長していることがうかがえる。また、多数の受賞があり、修了者・学生の大多数が道場を含めたプログラム全体の価値を高く認め、自信と満足を示している。さらに、修了者全員が企業や公的研究機関の原子力安全・セキュリティ専門家として就職していることも趣旨に沿っている。以上のことを踏まえ、全体として十分に評価できる。一方、留学生や他大学出身者、社会人学生の比率はわずかに増加したものの、前期課程・後期課程ともに学生数が募集定員に満たなかった点は今後一層の努力が期待される。

事業の定着・発展については、継続・発展と長期指導体制確立に向けた運営体制の構築と再編の取組がなされ、本プログラムの卓越した専門性とリーダーシップ養成や道場等の理念と経験は、全学共通プラットフォームである「リーダーシップ教育院」の設置等の教育改革や学寮構想に大きな波及効果を与えており評価できる。さらに、学生への経済的支援のための財源確保はやや遅れていたが、財源と規模の具体化等で明確な進展を見たことは評価できる。一方で、道場経費の財源は確保できておらず学生数確保に懸念があり、情勢変化対応や教育効率と持続性の観点から今後一層の検討が望まれる。